



**問** 町の魅力を発信するマップづくりを  
**答** 文化マップの製作を構想

**問** 大木町の魅力を発信するため我がまちでの独自のマップづくりを望む。

**企画課長**

大木町は古来より農業を中心に発展してきた。

現在、花のあるまちづくり事業を推進し、菜の花、桜、ハナシヨウブを地図に落とし、春の散策マップと、ケイトウを地図に落とし、ケイトウマップを作成している。

さるこいフェスタは、本年度12回目を迎え地域に埋もれた文化遺産をはじめ、食文化や堀にかかわる文化などを地元の人々がコース化し、パネルを各所に提示するなどまちの宝の再発見の契機にしている。

今は紹介しているマップやリーフレットはないが、近い将来、GPSシステム機能によりスマートフォンなどにその地点の紹介が出てくると思われる。

今後、埋もれた文化遺産を発掘し、職人、文化人の歴史や功績が一望できる文化マップの製作も構想している。



毎回大盛況の“さるこいフェスタ”

**問** 農業法人化推進による町の指導と対応は。

**産業振興課長**

地域農業を維持していくため、集落営農組合の法人化を推進してきた。本年9月末までに12組織が法人化される見

込みとなっている。

法人化に取り残された集落や農家の指導については経営者の判断を尊重し、営農座談会やチラシの配布等により、離農を希望される方には、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積・集約化につなげ、営農を継続される方へは、集落営農法人への参加や補助事業の紹介等、個別に相談を受けたい。

**問** 特産物への助成は

**産業振興課長**

「環のかおり」は、くるっ肥を活用し、県の減農薬、減化学肥料栽培認定を受けて栽培した菜種を原料に、圧搾法で絞った100%天然の食用油。町内家庭から、学校給食やふるさと納税の返礼品など、本町ブランド品の一つとして利



大木町のブランド品“環のかおり”

用されている。菜種は1営農組合、1農家により栽培され、「環のかおり」として商品化し、飲食店での購入助成や新たにハーフボトルの導入を始めた。

経営所得安定対策交付金により麦、大豆などと遜色ない収入金額となる。

今後、生産者の方々と協議し、拡大につなげたい。